


(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		急傾斜地崩壊対策等事業		路河川名等		沢渡		
事業毎の通番		2		市町村名		伊那市		
事業毎の通番		2		箇所名(ふりがな)		沢渡(さわんど)		
事業概要	事業目的	本箇所はJR沢渡駅西側に位置し、勾配45°、最大高さ26mの急斜面で、保全対象として人家16戸が隣接し、避難所である伊那市西春近支所・公民館が存在し、災害時要援護者施設が特別警戒区域内に位置している。斜面からの湧水も見られる。前後の斜面も崩壊の危険が大きいため、急傾斜地崩壊対策工事を施工し民生の安定を図りたい。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		急傾斜地法		
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象: 人家16戸 公共施設: 西春近支所公民館、老人憩の家西春近荘、商工会議所西春近支所、市道、JR飯田線						
	着手年度	平成27年度	事業期間		5年間		事業費(千円)	
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果		4.9		財源内訳(千円)	
全体事業内容(主な工種)	・法面工 L=260m			200,000	90,000	20,000	81,000	9,000
年度事業内容(主な工種)	・地質調査 1式 ・地形測量 1式 ・詳細設計 1式			15,000	6,750	1,500	6,075	675
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土砂災害特別警戒区域指定の解除						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	○ 人家戸数: 16戸 ○ 公共施設数: 5施設 ○ 災害時要援護者施設の有無: 一般施設(老人憩の家西春近荘) ○ 避難場所、避難経路の有無: 避難所あり(西春近支所公民館)					評価	A
	重要性	○ 過去の災害履歴: なし ○ 交通遮断による地域経済への影響: 大(JR飯田線) ○ 地域防災計画上の位置付け: 位置付けあり					評価	A
	効率性	○ 費用便益比: 4.88 ○ 事業期間: 5年 ○ 工法等の比較検討: 検討なし					評価	B
	緊急性	○ 斜面の高さ: 平均高さ18m ○ 斜面平均勾配: 39° ○ 地質: 段丘堆積物 ○ オーバーハング、遷急線、谷地形、凸地形: なし ○ 植生: 普通 ○ 保全対象の位置: がけ下11戸、がけ上5戸					評価	B
	計画熟度	○ 事業情報の共有: 関係者以外にも周知 ○ 地域の取り組み: 地元要望あり ○ 地域の合意形成: 事業目的について合意形成が図られている ○ 住民との協働: 住民独自の取り組みが予定されている					評価	A
	部意見	保全対象に人家16戸、災害時要援護施設1棟、避難所である西春近支所・公民館がある。斜面からの湧水も見られ崩壊の危険が大きいため、早期に対策を行う必要がある。	行政改革課意見	保全対象に人家16戸、公民館が存在し、災害時要援護施設が特別警戒区域内に位置していることから、必要性、重要性が認められる。	評価結果	○	総合評価	A

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	
	
事業概要説明図表	<p>【整備の必要性がわかる状況写真等】</p> <p>斜面状況</p>  <p>老人福祉施設</p> <p>保全対象(避難所)</p> <p>保全対象(災害時要援護者施設)</p>  
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該斜面は、平均勾配45°、最大高さ26mの急斜面で、昭和53年6月には急傾斜地崩壊危険区域に指定、保全対象として人家16戸、地域防災計画記載の避難所である伊那市西春近支所・公民館が存在し、災害時要援護者施設が特別警戒区域内に位置している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	保全区域内には地域防災計画指定の基幹避難所をはじめ16戸の人家、JR等があり、地元より早期の斜面対策を求められている。
③事業説明等の経緯	平成25年2月土砂説明会開催。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	本箇所は災害時要援護者関連施設があり、しあわせ信州創造プラン(長野県総合5ヶ年計画)に位置づけられている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に配慮について検討の予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	施設整備による特別警戒区域の解除により、付近の土地利用の活性化が期待される。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯: N 35° 48' 09.25" 東経: E 137° 56' 44.08"